

普及活動情勢報告（平成 31 年 3 月分）

中央東農業振興センター農業改良普及課

シシトウ南国地区合同現地検討会を開催！



2月27日に南国市でJA4部会合同現地検討会が開催され、14名の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは、仕立て・整枝方法の現地実証ほの状況、かん水管理、作後半(4～6月)の収穫ローテーション等について説明しました。

生産者からは、「主枝2本仕立て・低位摘心栽培がこれからの時期は楽そう」「収穫ローテーションを参考にこれからの雇用について考えてみる」等の意見がありました。

農業改良普及課では、現地検討会や勉強会等により生産者の生産安定を図っていきます。

南国市稲生果樹研究会がモモ摘らい講習会を開催しました



3月7日、稲生果樹研究会がモモ摘らい講習会を開催し、生産者12名とJA営農指導員が参加しました。

稲生のモモは高樹齢の樹が多く、樹勢の強化が課題です。昨年秋の剪定講習会で春の摘らいの意義を説明したところ、生産者からより詳しい実演を含めた講習会の要望がありました。

農業改良普及課は、摘らいが樹勢強化及び果実肥大に効果が高いこと等を説明し、摘らい作業を実演しました。

生産者からは、「どれくらいツボミを除ける?」、「やったことがない。試しにやってみる」等の声が聞かれ、有意義な講習会となりました。

農業改良普及課は関係機関と連携し、地域の特産果樹の生産維持に向け、研究会活動を支援します。

香南市赤岡町で集落営農組織が設立されました！



2月19日、香南市において、「赤岡北部集落営農組合」の設立総会が開催されました。総会では事業計画や規約等の議案が承認され、組合員4名の集落営農組織が設立されました。農業改良普及課は、市と連携し、組合の設立に向けての情報提供やビジョン・営農計画の話し合い等への支援を続けてきました。

組合員は、今は小規模だが、将来的には地域で助け合いながら園芸にも取り組み、次世代に繋いでいける組織になりたいとの思いを抱いています。

農業改良普及課は、組合の活動や運営について、市と連携しながら今後も支援していきます。

菰生米研究会が視察研修を実施しました！



2月27日、香美市香北町の菰生米研究会生産者5名と関係機関2名が、愛媛県宇和島市の「道の駅みま」を視察しました。農業改良普及課は、視察先の情報収集と紹介、日程の調整等を行い、視察実施を支援しました。

道の駅の出荷部会生産者4名と事務局から、「みま米」の栽培状況と道の駅における販売促進方法等を聞き取るとともに店頭での販売状況を調査しました。参加者からは、作付け体系や具体的な栽培方法、販売イベントや販売単価についても質問があがり、産地同士の意見交換にも繋がりました。

農業改良普及課は、今後も菰生米のブランド化に向けた研究会の取組を支援します。

新規就農者用ユズ園地確保に向けた農地中間管理事業説明会の開催



3月1日、香美市香北町基幹集落センターにおいて、農地中間管理機構、香美市、農業委員及び農業改良普及課が連携し、新規就農者に農地貸付を希望する地権者に向けた農地中間管理事業説明会を開催しました。香北町を中心にユズ園地の確保を希望する産地研修中の研修生1名の農地確保のため、農業改良普及課等の事前調査で貸付を希望者した5名に今後の事務手続き等を周知しました。

その結果、同事業で集積した約150aのユズ園地が、就農時に一括で貸し出されることになりました。

農業改良普及課では今後も、新規就農者の農地確保に向け計画的に支援します。

ピーマン南国地区合同現地検討会を開催！



3月18日に南国市でJA3部会合同の現地検討会が開催され、8名の生産者が参加しました。

農業改良普及課からは、現地ほ場の栽培概要や新たな仕立て・整枝方法の実証ほの状況、南国市のピーマン部会活性化に向けた取組等について説明しました。

生産者からは、「新たな仕立て・整枝方法に取り組みたいがどのようにするのか」「2条2本仕立ての方が収穫量が多い」等の意見があり、活発な現地検討会となりました。

農業改良普及課では、現地検討会や栽培講習会等により生産者の技術向上を図っていきます。

青年農業士中央東ブロック協議会の平成30年度総会が開催されました



平成 31 年 3 月 11 日、「サンピアシリーズ」にて総会及び研修会が開催されました。総会には、青年農業士 16 名が出席（＋委任状 14 名分/会員数 35 名）が出席し、H30 年度の活動実績及び H31 年度の事業計画について協議を行いました。総会終了後の研修会では、JA 高知県営農販売事業本部の担当者から「高知県園芸の流通販売の取組み、新体制での流通戦略について」と題し、これまでの流通販売の仕組み、取引市場との関係性や新体制になっての取組の変更点について講演してもらいました。農業士からは、「プロポーサルについて輸出の品目や、輸出先での反応についてはどうか」や「みかんは日本人と好みが違うと聞いたがどうか」など次々と質問が上がり、多くの情報収集の場となりました。

農業改良普及課は、青年農業士の活動で主力に展開している産地 PR 活動の取り組みを、関係機関と連携をしながら支援していきます。